
マイナスイライバー

黒井伸男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マイナストライバー

【Nコード】

N7009T

【作者名】

黒井伸男

【あらすじ】

名作怪談「マイナストライバー」のパロディです。

僕がまだ4〜5歳の頃の話です。自宅に風呂が無かったので、よく母親と銭湯に通っていました。

まだ小さかった僕は母と女湯に入っていたのです。

ある日のこと、身体を洗った後、飽きてしまった僕は、湯船の中をプールがわりにしてバシャバシャ遊んでいました。

今迄気付かなかったのですが、湯船の横に小さな階段があり、その先にドアが付いていたのです。

僕はそのドアが気になって階段を昇りドアの前まで行きました。

ドアノブの直下に大きな鍵穴があったので、ワクワクして覗いてみました。

ぼんやりとした明かりの中、ボイラーとおぼしき器械と、蠢く人影のようなものが見えたのです。

しかも微かにうめき声も聞こえてきます

何だろう？。そう思ってもう一度しっかりと覗いて見ることにしました。

ふとドアの向こうで変な気配がしたので、僕が目を離し身を引いた次の瞬間

鍵穴からマイナスドライバーのような先端が尖ったモノが飛び出してきて、狂ったように鍵穴を乱舞したのです。

僕は息を呑み、それを凝視しました。それはドライバーではなく、木でできた錐のように鋭い何かでした。僕は勇気を出してドアを

開けました、すると… また嘘ばかりつきおってえ、今度という今度は許さんぞッ！

そう怒鳴りながら
ゼエペット爺さんが

ピノキオのお尻をペンペンと叩いておりました。【完】

(後書き)

こんなバカバカしい話を最後まで読んでくださり
ありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7009t/>

マイナスドライバー

2011年10月9日02時53分発行